

# 教職をめざす みなさんへ

## 夢と感動を 感じることができる職業

国際経営学部

准教授 岩本 貴光

最近、この歳になると冠婚葬祭に出席することが多くなった。特に、私が高校教員をしていた時の生徒の結婚式への出席がととても多い。先日も、岡山まで結婚式に出席するため足を運んだ。私が高校教員時代に指導した生徒の結婚式のためだ。その生徒だった女性は、現在小学校の教員をしており、文部科学省から海外派遣を依頼されるなど多岐にわたって活躍をしている。当然、高校生の時代もとても優秀で剣道部に所属し、夜討ち朝駆けの忙しい日々だったが、正しく文武両道を見事に実践した生徒だった。その女性がわざわざ大学まで招待状を持参し、結婚式出席の依頼をしてきたのだ。

私は、「教え子」という言葉はあまり使わないようにしている。

なぜなら、教え子とは、教えられた側が、この先生から「学びを得た」と感じた時に初めて教えたという事実が発生するわけであり、この先生から「何にも学ぶものがなかった」という先生が語る言葉ではないからだ。

しかし、この女性から、結婚式に呼んでもらえるということは、なんらかの影響を与えたことは、間違いのないので教え子と呼んでいいのかもしれない。

その結婚式の際に、本人からは感謝の言葉ももらったことに感激をしたのだが、ご両親から「先生に会って、この子は教員を志し、この男性と巡り合いひとつの家庭を築くことになりました。本当にあ

りがとうございました。」と言葉をいただいた。心の底から嬉しいと感じた瞬間だった。

教師という仕事は、様々な考えを持つ生徒らに柔軟に対応してより良い道に導かなければならない、責任が大きいとても困難な仕事だ。しかしその何倍も生徒から感動、感激をもらえる、やりがいのある喜びの多い仕事であることは間違いない。

今、あなたたちが選択しようとしている仕事は、これからの人間社会を作る未来ある子どもたちと触れ合い、寄り添いあえるとても尊い仕事です。

ぜひ、立派な教師を目指して「教え子」をたくさん育てることを目標に研鑽を積んでください。